

食器リサイクル全国ネットワーク

おちゃわん通信

第 24 号 20160731

多くの人に知ってもらうためには

食器リサイクル全国ネットワーク

代表 江尻京子

今年 3 月 6 日に多摩市唐木田のエコにこセンターを会場に第 23 回 TAMA とことん討論会 “陶磁器製食器の 3R～食卓から考える「もったいない」” を実施しました。主催は私の所属する NPO 法人(東京・多摩リサイクル市民連邦)と公益財団法人東京市町村自治調査会で構成する実行委員会ですが、食器リサイクル全国ネットワークも協力しての開催となりました。

プログラムは展示・ワークショップ・ディスカッションの 3 本立て。展示は、全国ネットの個人・団体会員からも情報提供があり、各地で取り組む陶磁器製食器の回収やリユース、工芸など、様々な活動を発信することができました。ワークショップは、あらかじめ焼成した楕円形の小さなパーツにアクリル絵の具でマーガレットを描いてブローチをつくったり、食器の破片を木枠に埋め込んでいくモザイクアートの体験を行いました。

ディスカッションは、基調講演・報告・課題提起の後、参加者全員で意見交換。また、事前申込特典として数種類の Re 食器から好みの品を選んで持ち帰り、後日選んだ理由や使った感想などを送ってもらいました。

意外だったのは、「Re 食器を使ってみたかった」ではなく「欲しいと思っていたサイズのものがあったよかった」や「もようや色が気に入っている」という回答がほとんどだったこと。もっとも、討論会に積極的に参加する方にとっては、リサイクル品を使うことは当然で「使ってみたかった」という回答は選択肢にはないのかもしれませんが。

一方、ごみ減量や 3R の学習会に招かれ、食器リサイクルや Re 食器のお話をすると「初めて知った」「初めて見た」という方が大半を占め、「使ってみたい」「触ってみたい」という声が多く上がります。

さて、この差をどう埋めていけばよいのでしょうか。例えば、トイレットペーパーには純パルプ製と再生紙製があることをたいていの人が知っているように、食器も天然原料の製品とリサイクル原料を使用した製品があることを、環境問題やごみ問題に深くかかわっている人以外にも伝えるしかけが必要です。運動を広げていくにあたり、全国ネットの役割の一つを痛感した経験でした。

おちゃわん通信第24号掲載記事一覧

- 報告 うつわとあかりのシンフォニー REMIX
- 報告 市原製陶の挑戦
- 報告 陶磁器食器の回収を休み半年経ちました
- 報告 武蔵野市のお茶わんリサイクルについて
- 報告 再生陶土による初イベントを開催！「eco 風鈴展」
- お知らせ 陶芸体験のおさそい
- 聞きたい!知りたいたい!語りたい! 食器リサイクルの“いま”
- 食器リサイクル全国ネットワーク会員募集